

2013年度 事業報告と2014年度 事業計画



PHJ 理事、PHJ 代表 木村敏雄

ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) の賛助会員の皆様、ご支援者の皆様、2013年度も温かいご支援を頂きありがとうございます。当期の事業報告と2014年度の事業計画を説明いたします。

1. 2013年度事業報告

当期は東南アジア3ヶ国での支援活動とともに2011年3月11日に発生した東日本大震災の災害支援も引き続き活動を行いました。カンボジア・インドネシア・タイの母子保健改善を中心とした支援活動は順調に推移し、これ

1. カンボジア支援 (総事業費 1,847万円): 国連ミレニアム開発目標 (MDGs) のうち安全な出産と子どもの健康な発育を目指して活動しました。コンポントム州で実施した母子保健改善のための健康な村作り事業は外務省からの補助金を頂き2年目の活動を終えました。プレイベン州での母子保健助産師トレーニングは当期で終了しました。



衛生モデル世帯への衛生教育

2. インドネシア支援 (総事業費 1,701万円): MDGsの目標でもある安全な出産と子どもの健康な発育をめざし、バンタン州地域保健医療システム強化事業を実施しました。優良な医療サービスを提供できる診療所建設は今期は1棟、累計7棟となりました。診療所での安全な水確保のために深井戸1本を掘削しました。バリ州では感染症予防教育支援として狂犬病の予防体制の整備とワクチン提供を行いました。またギアニア病院の医師や技師にむけて画像診断技術教育支援と歯科医師への技術指導も口腔衛生予防教育支援として実施しました。



妊婦体操の指導



障がい児のリハビリ教育で絵を描いているところ

3. タイ支援 (総事業費 3,150万円): 5大学の学生を対象にしたHIV/エイズ予防教育支援はチェンマイ保健局と提携して行い、過去10年に亘る成果の評価は外務省の補助金を取得して実施しました。外務省からの補助金事業である子宮頸がん・乳がん検診推進支援は2012年10月に第2年度を終え、同年11月より第3年度の活動を実施しています。HOPEパートナー教育支援はタイの医療保険制度

ら海外支援に対する募金活動においては次ページの会計概要に記載しておりますように、補助金を含めた収入計画 (商品除く) 8,950万円に対し実績8,943万円とほぼ計画を達成しました。支出については計画8,450万円に対し実績8,649万円となり、この収支は+294万円となりました。

一方災害支援活動は前期同様、多くの法人・個人の方々のご支援により災害募金収入4,227万円、商品寄付747万円となりました。全日本病院協会と連携し主に気仙沼、石巻、多賀城の被災病院の復興のための医療機器、訪問診療用の車両等の寄贈による支出は5,285万円となり、災害募金残金827万円は次期に繰越しました。

活動地域別の報告は3ページから掲載しておりますのでご参照ください。ここでは事業の概要をお知らせします。

の改善により34名が対象外となり、残り25名の支援と小児先天性心臓病手術支援を続けています。

ベトナムでは北部の乳がん検診推進支援をパートナーをベトナム・ウイメンズ・ユニオンに変えて展開しています。

4. 東日本大震災支援活動 (総事業費 5,285万円): 全日本病院協会と連携した復興支援活動は気仙沼市医師会の協力で民間医療機関へ不足している医療機器、用品、備品を寄贈しました。また訪問医療が出来なくなったクリニックへの移動診療車の寄贈とともに、医師会へも車の寄贈を行いました。石巻と多賀城が新しい支援先として加わり、石巻では仮設住宅1,900棟、約4,000人が入居している地域の仮診療所ヘドクターカーを寄贈し、多賀城では透析用医療機器を提供しました。このほか多くの企業から医療用マスク、消毒スプレーなどの支援物資を被災地へ届けました。



石巻に寄贈した移動診療車は訪問診療に使われています

5. 第4ヶ国目の支援候補地の調査: 支援事業分野としては母子保健および地域保健改善、感染症対策とし、貧困地域に居住する母と子をターゲットに第4ヶ国目の候補国としてミャンマーを3回、ラオスを1回調査しました。特にミャンマーでは政府・保健省の協力をいただき、ヤンゴン市近郊、首都ネピド特別行政区などの国立病院や村の医療施設の調査を行いました。検討の結果、第4ヶ国目の支援国はミャンマーとしました。

6. 賛助会員・支援者の数

当期末現在、PHJを支援して下さっている個人は賛助会員約1,300名、その他支援者400名、法人は賛助会員約200団体、その他支援団体が200です。このように多くの個人、法人の皆様のご支援とご寄付でPHJの事業活動を実施できますことを心から感謝いたします。

II. 2014 年度事業計画

2014 年度は引き続き母子保健の改善を主な事業目標とし、カンボジアでは母子保健改善のための健康な村づくり事業、学校の保健教育、助産師育成のための図書寄贈など（総事業費 1,900 万円）を計画しています。インドネシアでは母子保健の改善のための地域医療保健システムの強化、HIV/AIDS 予防教育他（総事業費 2,000 万円）を推進します。タイでは HIV/AIDS 予防教育、障がい児の支援、小児先天性心臓病手術支援、子宮頸がん・乳がん検診推進を、ベトナムで乳がん早期発見事業（タイ・ベトナム総事業費 3,060 万円）を進めます。

これら 3ヶ国の事業の継続とともに第 4ヶ国目の支援候補地として前年度調査したミャンマー（総事業費 300 万円）の具体的な活動地の決定と支援の第一歩を踏み出す予定です。



写真は 2 月 7 日に訪問したレーウエータウンシップ病院傘下の保健センター：65 村、人口 45,000 人をカバー。分娩室なし、搬送はタウンシップ病院まで馬車またはバイクで 40 分。電気は照明用電球。井戸水使用。



また東日本大震災支援（総事業費 2,116 万円）については前期に引き続き全日本病院協会と連携して被災地の病院機能の復興支援とともに仮設住宅や周辺住民への医療サービスが充実するように医療器材の寄贈や不足している医療用品の配布などを支援していきます。

2014 年度も皆様のご支援をいただき、東南アジア、日本で健康と希望を届ける活動を展開いたします。ご支援とご協力をお願いいたします。

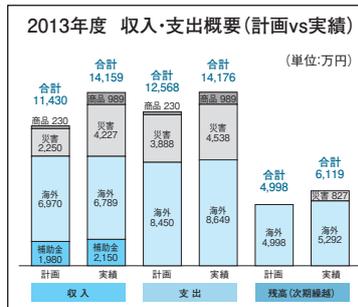
2013 年度決算および 2014 年度予算

(単位：円)

科目	2013 年度決算	2014 年度予算
I. 収入の部		
1. 現金寄付		
法人	110,153,417	82,000,000
個人	50,805,844	57,500,000
パートナー	7,921,832	7,600,000
一時寄付	2,070,000	2,000,000
災害寄付	7,089,055	6,000,000
特別寄付	42,266,686	8,900,000
2. 商品寄付	9,887,688	1,400,000
3. 公的補助金	21,500,869	26,580,000
4. 預金利息	45,491	
当期収入(現金)	131,699,777	108,580,000
当期収入(商品)	9,887,688	1,400,000
当期収入合計(A)	141,587,465	109,980,000
前期繰越(現金)	61,360,235	61,188,313
〃(商品)	0	0
収入合計(B)	202,947,700	171,168,313
II. 支出の部		
1. 事業費		
現金	119,822,847 (84.5%)	95,160,000 (80.5%)
商品	109,935,159	93,760,000
2. 募金活動費	16,672,282 (11.8%)	17,000,000 (14.4%)
人件費	10,650,000	10,000,000
経費	6,022,282	7,000,000
3. 管理費	5,264,258 (3.7%)	6,000,000 (5.1%)
人件費	1,553,157	2,000,000
経費	3,711,101	4,000,000
支出合計(C)	141,759,387 (100%)	118,160,000 (100%)
現金	131,871,699	116,760,000
商品	9,887,688	1,400,000
III. 次期繰越(B-C)		
1. 現金	61,188,313	53,008,313
2. 商品(在庫)	0	0

2013 年度事業報告

会計報告



2013 年度事業費内訳 (現金+商品)

単位：円

支援事業費	現金	商品	合計
インドネシア	17,008,173		17,008,173
カンボジア	16,047,359	2,419,960	18,467,319
タイ・ベトナム	31,497,740		31,497,740
日本(災害支援)	45,381,887	7,467,728	52,849,615
計	109,935,159	9,887,688	119,822,847

監査報告書

ピープルズ・ホープ・ジャパン

理事長 小田 晋吾 殿

私はピープルズ・ホープ・ジャパンの 2013 年度の事業報告書および決算書を監査した結果、いずれも適正妥当なるものと認めます。

2013 年 8 月 6 日 監事 八木和則 (印)

第 18 回理事会、第 16 回総会

8 月 22 日(木) 東京千代田区にある如水会館で第 18 回理事会が開催され、2013 年度の事業報告、決算報告、2014 年度の計画と予算が討議され承認されました。カンボジアの林所長、インドネシアの伊藤所長、タイ・ベトナムのジラナン所長が報告を行い、東日本大震災復興支援について横尾が報告しました。

上記の議案は引き続き開催された第 16 回総会に付議され、異議なく承認可決されました。



ピープルズ・ホープ・ジャパン役員(敬称略 50音順)2013年8月22日現在

理事長	小田 晋吾	日本ビューレット・バックカード(株)元社長
副理事長	田中 滋	慶応義塾大学 経営大学院 教授
理事	川上 潤	GEヘルスケア・ジャパン(株)代表取締役社長兼CEO
〃	木村 敏雄	ピープルズ・ホープ・ジャパン代表
〃	甲谷 勝人	日本ビューレット・バックカード(株)元社長
〃	後藤 幸子	武蔵野市民
〃	五月女 光弘	外務省初代NGO大使、駐ザンビア、駐マラウイ共和国大使
〃	清家 篤	慶応義塾 塾長
〃	内藤 晴夫	日本製薬団体連合会会長、エーザイ(株)代表執行役社長(CEO)
〃	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学 放射線医学講座 教授
〃	西澤 寛俊	全日本病院協会会長、西岡病院理事長
〃	松本 謙一	海外医療機器技術協力会会長、サクラグローバルホールディング会長
〃	溝口 文雄	横河電機(株)社友
監事	八木 和則	公認会計士・監査審査委員会委員、企業会計審査委員会委員、横河電機(株)顧問

カンボジア—2013年度の主な活動と2014年度の計画

2013年度報告

3年プロジェクトとして2011年から実施している「コンポントム州母子保健改善に向けた健康な村づくり事業」を主な活動として展開しました。2008～2010年の第一次プロジェクトでは保健センター強化を主眼に、サービスの質や運営能力の改善がみられました。この成果を持続して強固にするため、第二次プロジェクトでは、焦点を村に移し村人自身がより良い母子保健知識や保健行動を身に付け保健センターの更なる利用を促すことで、村全体の母子保健状況を改善する目的で下記6つの活動を実施しました。

- ①保健センター運営支援（第一次からの継続）
- ②保健搬送システムの導入
- ③母子保健ボランティア(CCMN)の育成と戸別訪問の支援
- ④村と保健センターのネットワーク支援
- ⑤村での保健教育
- ⑥水と衛生の改善



CCMN リフレッシュ・トレーニング

CCMNの育成では、今期対象としている4地区で54名を新規育成しました。前年度の育成を合わせると合計84名のCCMNを誕生させました。現在では、コンポントム州保健局からの依頼で2010年度にUnicef育成のCCMNも支援対象に含め、総勢111名の活動フォローアップ（戸別訪問活動に随伴し技術指導を行う）を実施しています。CCMNは自分たちの村で産前・産後の女性を戸別訪問し、母子保健教育や相談を提供しています。村の女性がお産時に彼女らを頼って連絡し、保健センターに随伴してもらうケースも多くなり、CCMNの村での存在感が増しています。



チュクサク地区でのTukTuk 寄贈式

水と衛生の改善では、60基のトイレ建設支援を行い大変喜ばれました。支援を受けた世帯は「衛生プロモーター」としてPHJから衛生教育を受け、村で「衛生モデル世帯」として行動することが期待されます。衛生状況・行動の活動事前・事後調査のスコアでは、村全体で平均して54%から62%に上昇し衛生状態が改善されたばかりでなく、トイレ支援を受けた衛生モデル世帯での改善が47%から70%と最も著しく支援の効果を伺えます。

特筆すべきは、保健搬送システムの導入です。搬送システムは、大塚製薬様より当地で広く利用されている交通手段Tuktukをご寄贈頂き、緊急時（お産や病状の悪化等）に村と保健施設を結ぶ足を確保するものです。本年度までに計6台のTuktukを寄贈頂き、保健センター2か所、村8か所で稼働させました。今期計81件搬送実績があり、多くの緊急ケースが手遅れとなる前に救われました。このシステムの運営は、村で運営委員会を組織し、搬送時の対応、問題解決、資金の管理を担っています。運営委員会には④村と保健センターのネットワーク支援や⑤村での保健教育の活動でPHJと協働している保健ボランティアが参画、運営の中心を担っており、他活動での地域保健人材育成の成果が表れています。



村での保健ボランティア会議

2014年度計画

コンポントム州母子保健改善に向けた村づくり事業の最終年度にあたり、個々の活動をいかに村に引き継いで（ハンドオーバー）いけるかが鍵となります。この移行をどう進めていくかカンボジア事務所、東京本部スタッフは2013年4月より議論を重ね、PHJが持つ現場での活動ノウハウ、保健知識、ファシリテーション・プレゼンテーション力といった“財産”をできる限り村に残す意志を固めました。このような財産は目に見えて残せるものではなく、その進捗具合を可視化するためハンドオーバー計画を活動ごとに作成しました。そして対象55村の能力レベルをPHJスタッフの日頃の現場観察より評価し、計画と照らし合わせ、村ごとのレベルに見合ったスピードで進めていくクリアな方向性をもった試みを始めました。コンポントム州でPHJが長期行ってきた支援の集大成を地域に残していけるよう、今年度も邁進して参ります。

本プロジェクトの完了を控え、今後の活動を見据えて八神製作所様からご支援いただき学校保健パイロット・プロジェクトも開始しました。今までカバーできなかった小学校の子供達を対象に保健教育を実施し、保健・衛生観念を子供のうちから育てる機会づくりを狙っています。

現活動の完了、そして今後の活動の展開まで見据えなければいけない2014年度は大忙しですが、カンボジア事務所への皆様の温かいご声援を引き続きよろしくお願ひします。

カンボジア事務所 林 朝子

インドネシア—2013年度事業報告と2014年度事業計画

2013年度報告

◆母子保健改善事業* (バンタン州 セラン県ティルタヤサ自治区)

(*旧地域保健医療システム強化事業)

2004年に開始した事業ですが、助産師さんなどの献身的な協力により、困難を乗り越え進捗しています。事業テーマは「安全なお産」のための妊婦さんへの月例の母子保健教育活動、「地域医療サービス向上」のための地域保健センター建設支援、「幼児や妊婦の栄養状態改善」のための栄養教育・栄養メニュー開発・一村一栄養菜園活動などです。

2013年度最も苦労したのは、自然との闘いである「栄養菜園活動」で、乾季といえども例年なら少しは降る雨が一滴も降らずに日常生活にも影響が出て、活動を一時中断せざるを得ない村もありましたが、懸命な回復努力の結果、活動を再開することができ、月間40キロもの空芯菜を収穫する村もありました。更には地元の小学校と協力して菜園活動を開始した村、「魚の養殖」を始める村もあり、同じ活動でも村ごとに特徴が出てきました。収穫された野菜は、栄養状態の良くない幼児の家庭や妊婦さんたちに無料配給され、非常に喜ばれています。

「家庭での食育改善」を目的とした「栄養メニュー開発」も好評で、村での調理実習を通し、徐々にではありますが浸透しつつあります。

「地域保健センター建設支援」は7棟目が完成し、医療施設での出産率も増えてきました。

2004年の活動開始からの成果データは以下の通りです。

	活動前	2008	2010	2011	2012
助産師による出産介助率	46.7%	64.5%	86.9%	90.3%	96.5%
医療施設での出産率	0%	3.8%	40.9%	57.2%	75.0%
自宅での出産率	100%	96.2%	59.1%	42.8%	21.5%



◆メディカル・フォロー・アップ事業 (バリ州ギヤーニャー県)

1998年から継続実施している県立病院での医療強化を目的としたこの事業では、CTスキャンの機種変更による、現地の放射線技師への研修を行いました。聖マリアンナ医科大学病院から放射線技師2名がギヤーニア病院へ赴き、6名の病院放射線技師へ研修を行い、撮影のための正しいプロトコール設定や画像の鮮明度などの指導を行った結果、画像の質が向上して放射線科医師から「診断がし易くなった」と嬉しい報告がありました。



◆歯科従事者技術向上教育事業* (バリ州東バリ地区) (*旧口腔衛生教育活動)

1999年から2006年にかけて実施した小学生を対象とした口腔衛生教育活動と歯科検診活動の結果を反映して、歯科従事者へのセミナーによる技術向上教育を実施しています。今年度は、実際の患者さんへ治療を施すという高いレベルの実践教育形式により実施し、参加者からは非常に高い評価を得ました。

2014年度計画

◆バンタン州セラン県ティルタヤサ自治区での母子保健改善事業は、現地移行活動の第2年度に取り組みます。また自治区内での異常出産や緊急処置を要する患者さんの搬送システムを構築するために、中古の救急車を寄贈する計画です。

◆バリ州ギヤーニャー県では、高校生を対象に「HIV/AIDS 予防啓蒙教育事業」をスタートさせます。

インドネシア事務所所長 伊藤美夏

タイ—2013年度事業報告と2014年度事業計画ハイライト

2013年度報告

8月上旬チェンマイに出張し、子宮頸がん・乳がん検診推進事業を視察してきました。この事業は外務省補助金を得て2010年11月より実施しております。2つの地区で実施された検診推進キャンペーンに同行したのですが、実際に現場を見て、各地区のヘルスポランテアの強力なサポートがキャンペーン参加女性数の増加、検診受診率の上昇に大きく寄与していることを実感しました。

簡単な問診を含む受付や健康相談など当日のサポートはもちろん、日頃から、これまでに検診を受けたことがない女性を1件1件個別に訪問し、検診の重要性を説いて回るなど地道な活動を続けています。

今回のキャンペーンでも、61歳で初めて検診を受けるという女性や検診に対して抵抗があったという独身女性が参加していたりと、ヘルスポランテアの日頃の活動の成果が表れていました。



検診推進キャンペーンの
PHJメンバーとミニバス

PHJの支援は今年11月中旬で終了しますが、現地保健省のもとで検診推進キャンペーンは今後も継続していきます。彼女達の今後の活躍に期待しています。

タイ担当 畑 真弓

2014年度計画

タイ事務所の HIV/AIDS 予防教育は、外務省の補助金により3カ年で計画しています。これまでの活動は大学生を対象に教育を行ってきましたが、第三者評価を行った結果、ピア教育は効果的であるが、昨今の風潮から若年層を対象とすべきという判断ができました。そこで対象者を高等専門学校生徒とし、チェンマイ地区にある18の高専対象に、年間6校ずつ、3年後には行政および先生方が永続的に予防教育が継続できるようにするとの条件で8月1日に調印式がチェンマイ総領事館において行われました。8月16日には本年6月に着任された藤井昭彦総領事を迎えてキックオフミーティングを開催し、チェンマイの保健省、対象

校の教師・生徒とともに、新たな事業のスタートをきりました。

タイ・ベトナム担当 蓮見雅彦



キックオフミーティング

東日本大震災復興支援

気仙沼産婦人科クリニックへ分娩台・手術台を寄付

PHJは2013年9月に宮城県気仙沼市の森産婦人科医院へ分娩台、手術台2台を寄付しました。同医院は地域の民間クリニックとして、多くの女性患者や子供を受け入れ献身的に医療を提供してきた施設でしたが大震災の津波で1階部分が浸水し、病院はかろうじて残ったものの高額な医療機器等は流失・損壊で大きな被害を受けました。

その後、診療所復旧に向けて各方面から中古の医療機器等の支援を受けながら2011年8月に一部診療業務を開始しましたが、妊婦検診のみで分娩・手術までの医療提供は出来ませんでした。従って、妊婦患者は他の医療機関を紹介されてそこで出産しなければならぬという大変不便な状況が続いておりましたが、今回の分娩台・手術台の寄付でこの問題が解決することになり大変喜ばれております。

9月19日の寄贈式には気仙沼市医師会の他、ご支援・協力いただいた多くの方々にご出席いただきました。



気仙沼産婦人科クリニックへ分娩台・手術台を寄付

気仙沼市医師会長から PHJ へ感謝状をいただく

東日本大震災発生から2年半が経ちましたが、PHJはこれまで主に気仙沼の民間医療機関へ医療機器や什器類の寄付を通じた支援を続けて来ました。この活動は全日本病院協会から気仙沼市医師会をご紹介いただき、医師会による医療機器ニーズ調査をもとに行いその結果、要望に沿った支援が出来ました。この度、これまでのPHJの活動に対して気仙沼市医師会長から感謝状をいただきました。

東京事務所 横尾勝



気仙沼医師会長から PHJ へ感謝状を頂く

2011年3月15日から2013年6月30日までの東日本大震災寄付金の収支

2011年3月から2013年6月までのPHJの募金活動は下記の表のとおりです。皆様のご支援に感謝いたします。

単位(万円)

収入	現金寄付	10,980
	商品寄付(医療機器・事務機等)	20,597
支出	医師派遣費・医療機器調達費	8,110
	商品支援(医療機器・事務機等)	20,597
	輸送費・スタッフ活動費	2,043
残額	復興支援に使う予定	827

会員のひろば

「PHJブログやFacebookへの投稿で小さなボランティア」 宮沢 宏 (個人賛助会員)

私はカンボジアの小学校に校舎を寄贈されました60会(横河電機同期入社OB・OGの会)の皆さんと毎年1月にその小学校を訪ねています。

PHJが1997年に設立された当時は恥ずかしながら余り興味がありませんでした。ところが2007年にカンボジアの小学校訪問団に加わるようになってコンポントム州のPHJ事務所にご協力を頂くようになり、急速にPHJとの距離が縮まりました。

私のカンボジア訪問は今年の1月で8回目を迎えました。この国の実情を見聞きして知れば知るほどカンボジアへの思いが私の中に強まってきました。

私達の小学校訪問は年に1度で僅か4日の滞在です。カンボジアをもっと知りたい私にとってPHJブログのスタッフ日記はとても楽しみでした。必ず読んでコメントを記すと必ず返事が記されることも嬉しいことでした。定年後は情報源が乏しくなりましたが、PHJのブログなどでカンボジアに関するイベントが紹介されることもありがたかったです。

さて、私のカンボジアに対する思いは初めの内は

小学校の子供達に対するものだけでしたが、訪問を重ねる内にそこで活躍している多くの日本人(女性が多い)と出逢う様になり、Facebookやブログなどを通じての交流が始まり、自分の娘や息子ほどの若い方々の活躍を知って彼等への思いも強くなってきました。

私達の小学校訪問もボランティア活動ですが、1年に1度の4日間だけであるのに対して彼等は365日毎日がボランティア活動であり、そのご苦労を知るにつけ頭が下がる思いでいっぱいとなりました。そこで、PHJをはじめとする彼等のブログやFacebookの投稿を必ず読んで励ましのコメントを送ることが私の小さなボランティアになるのではないかと考えています。



PHJ Facebook



小学校の子供達と

そんな屁理屈はさておいて、カンボジアの状況を知りたい私にとってPHJをはじめとするブログやFacebookは欠かせない楽しみの一つになりました。

PHJ スタッフ紹介



西郷 裕子

2月から会計担当としてスタッフに加わりました。随分前から会員にはなっていたのですが、スタッフとして加わり、タイ・インドネシア、カンボジア等現地の活動内容を知り会員の皆様からのお振込やご寄付の確認、領収書の発行、海外送金、会計監査のお願いなど経理の様々な作業がなくてはならないものだと思ってきました。PHJの活動のお役にたちたいと思います。

・ PHJ が参加する秋のイベント ・

「アジアのおはなしカレンダー 2014」をテーマに次の三つのフェスティバルに参加します。

●第24回 三鷹国際交流フェスティバル

日時 9月22日(日) 10:00-15:30

場所 井の頭恩賜公園 西園
東南アジアブロック
沢山の方に訪ねて頂き
ありがとうございます。



第24回三鷹国際交流フェスティバル

●グローバルフェスタ JAPAN2013

日時 10月5日(土)、6日(日) 10:00-17:00

場所 日比谷公園 スカイエリア 22

出展内容 「アジアのおはなしカレンダー 2014」のために描いた絵の展示
アジアの母と子を支える事業活動の紹介
2014年のスタディツアーのワークショップ

●むさしの国際交流まつり

日時 11月17日(日) 11:00-16:00

場所 武蔵境スイングビル 11階

出展内容 「アジアのおはなしカレンダー 2014」のために描いた絵の展示
アジアの母と子を支える事業活動の紹介
アジアのおはなしを聞いて、絵を描くワークショップ



2012年のむさしの国際交流まつり



2012年のグローバルフェスタ